

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」

それぞれの道へ

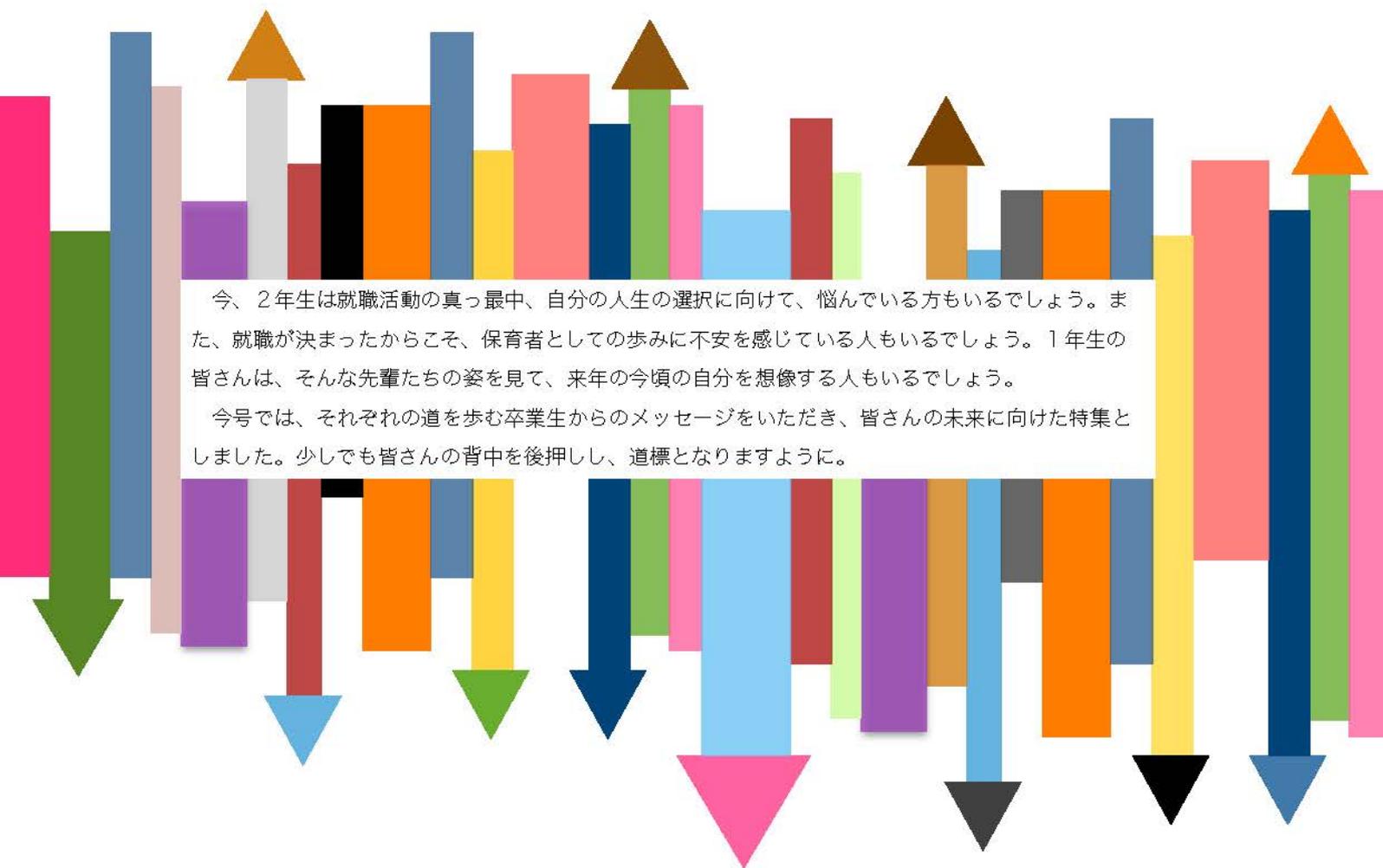
特集 未来に向けたエール

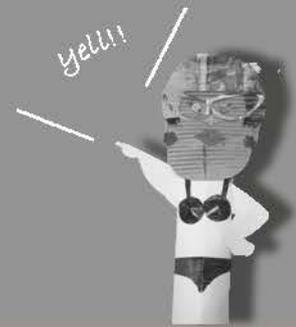
これから社会人となる皆さんへ (P.4-5)

卒業生からのメッセージ (P.6-14)

- 
- 教員からのおすすめ (P.15)
 - 「月歩学歩学生委員」ページ (P.16-17)
 - !hot news! (P.18-19)







この特集では、就職に向けて、就職担当の伊藤先生を筆頭に、さまざまな卒業生から、皆さんの未来に向けて言葉をいただきました。それぞれの卒業生がどのように今の就職先を決め、そして今どのように働いているのか、それぞれの歩みをお読みください。

これから社会人となるみなさんへ

いとう えりこ
伊藤 恵里子



これから社会人となるみなさん（と言っても「学生」も社会を構成する一員ですから既に“社会人”なのですが）、いまどんな気持ちでいますか？ 保育者として働くことが楽しみでしかたがない人もいれば、不安な人、まだ学生でいたいと思っている人、本当に保育の道でいいのかと迷っている人もいることでしょう。私自身は正規で働き始めたのが25歳ととても遅く、みなさんと同じ年齢の頃はまだ何も決められていませんでしたので、みなさんの不安や迷いにはとても共感できます。そして、それでも最後には覚悟を決めるみなさんを、本当に尊敬しています。

9月末、後期の授業開始とともに、2年生においては就職活動が始まり、学内ではスーツ姿の学生が多く見られるようになりましたね。就職活動の開始に合わせて、学内において、9月24日には『千葉県近未来保育研究所』、9月30日には『全千葉県私立幼稚園連合会』による「就業のための説明会」が開催されました。この会はブース形式による各保育所・幼稚園の説明会ですが、いわゆる合同就職説明会とは多少性格が異なり、保育所や幼稚園の仕事の面白さややりがいを直接各園の先生方からうかがい、これから社会の一員としてどのように社会に貢献していくのかを考えることを一番の目的としていました。みなさんは、どんなことを感じましたか？



また、「就職マナー講座」として、面接のマナーや手紙文の書き方についても指導し、一人ひとり模擬面接も行いました。模擬面接ではそれぞれが自己PRを話す場面を設定しているのですが、それを真剣に話すみなさんの姿がとても印象的でした。自己PRのためには、これまでの実習や学校での学びをふりかえり、がんばってきたことや苦手とするところを見つめ直す自己分析の作業が必要となりますが、それは時に苦しいものです。しかし、これから保育の現場や社会に出て行くためには、とても大事なことだと思っています。

さて現在、履歴書を苦勞して何枚も書く学生、面接練習をする学生、いろいろな園に見学に行く学生など、それぞれのペースでがんばっている姿が見られます。まわりの友人たちの内定が決まってくると、孤独を感じたり、くじけそうになることもあると思いますが、一人で抱え込まず、焦らず、一步一步すすみましょうね。私たち教職員も応援していますよ。

9月24日及び30日に行われた「就業のための説明会」では、たくさんの保育所・幼稚園の先生方がおいでくださり、学生にお話をしてくださいました。改めて感謝申し上げます。

今号では、そこで全体に向けてお話をしてくださった卒業生の言葉を（紙面の関係上全員ではないのですが）ご紹介いたします。また、その他の現場で働く卒業生からも、学生皆さんへのメッセージをいただきました。それぞれの歩みを、次ページからどうぞお読みください。



応援して
いるよ！



にしざわ まどか

44回生：西澤 円花さん（みのり幼稚園）

今、私は千葉市の都賀にある「みのり幼稚園」で、年少の副担任と2歳児親子教室の副担任をしています。昔から夢だった幼稚園教諭になり、半年が経とうとしていますが、この半年間は毎日無我夢中で過ごしてきました。

私が幼稚園教諭に就いて良かったと感じたことは、毎日の生活の中に、「ありがとう」という感謝の言葉が溢れていることです。

日々の仕事では、何をやるにも職員同士が助け合っていくことが必要となります。例えば、担任の先生が前に立っている時は、先生が動きやすいように先回りして準備をしたり、補助をしたり、何かの準備をする時は、クラス関係なく職員全員で協力、連携したりすることで、よりスピーディーに進めることが出来ます。時には、自分の時間を削ってまでも、相談に乗ってくださったり、ご指導してくださる先生方にたくさん助けられています。自分では全く気づけなかったことも、こうしたほうがいいよと教えていただきました。そんな時、指摘されたことに落ち込むのではなく、「言っていただきありがとうございます」という気持ちを忘れず、同じことを繰り返さないで次に活かすように心がけました。

幼稚園教諭になる前は、これほど「ありがとう！」と毎日言ったり、言ってもらえたりすることはなかったと思います。特に意識もしていないのに、日常の中で自然に笑顔と「ありがとう」という言葉が溢れている環境が、とても気持ちが良いのです。

また、保育に悩んだりしている時、私に元気をくれるもの、それは子ども達の笑顔です。朝、登園してきた子が「ニコッ」と笑顔で駆け寄って来てくれる時、「よし、今日も一日頑張ろう」と思えますし、楽しい時は大笑いして、悲しい時はエンエン泣いて、そんな素直な子ども達を見ているだけで、毎日が幸せだなあと感じます。子ども達はとても素直で人を思いやる心で溢れています。泣いている子がいれば声をかけたり、そっとティッシュを渡したりしている子もいます。「ごめんね」と謝っていたら「いいよ」と許してあげられる。大人の私達でもハッとさせられることがあるのです。

少しの傷でも「先生、大丈夫？」とずっと心配してくれたり、「先生だいすき！」と全身で飛びついてきたり、家で一生懸命書いたお手紙、拾ってきた落ち葉やどんぐりを大事な宝物を渡すように「はい、先生あげる」と言って持ってきてくれたりする。そんな子ども達の何気ない言葉や行動の中に、毎日嬉しさと心がほっと温かくなる気持ちを感じています。



もちろん、大変なこともきついと感ずることも何度もありました。時にはミスをしてしまい、すごく落ち込み、家に帰り泣いたこともありました。ちゃんと動けない自分の未熟さに悔しくなることもたくさんあります。

私は短大時代から要領が良い方ではなく、半年たった今も、毎朝「今日もミスしないように！ よし、頑張る」と気合をいれて、一日の流れを自分なりに何回もシミュレーションしています。幼稚園に着く前は、未だに緊張します。しかし、そんな中でも、「変わりたい！ 成長したい！ 同じミスは二度としない！」と自分に言い聞かせ、向上心を持つことで少しずつ変わっていくことができると思いました。

短大時代は何も知らなかった世間知らずの私でしたが、幼稚園教諭になり学んだことがたくさんありました。それは、保育のことだけではなく、マナーや社会常識、言葉遣いや挨拶、女性としての立ち居振る舞いなどにも気を配らないといけないということです。毎日子どもと接している中で、子ども達のお手本になる大人でなければいけないということを意識しています。保育者として、社会人として、女性として、成長していける職業だと思っています。

ここにいる2年生の皆さんは、まさにこれからの就職活動が始まります。就職活動は決まるまでは本当に孤独で、全て自分の力で乗り越えなければいけません。決めてからも、本当にこれで良かったのだろうかと思ったり、なかなか1つの就職先が絞れなかったり、自分は保育者としてやっていけるのかなど、大きいプレッシャーと、とてつもない怖さと不安の中に入ってしまった時期があります。

でも、不安な気持ちは皆一緒なのです。一人では抱えきれない時は、その気持ちを友達に言ってください。不安になったり、心配な時は、先生に話してみてください。言葉に出したら、きっと安心すると思います。何か答えが見つかるかもしれません。あー、自分だけじゃないんだなあ、皆考えていることは一緒だなあ、とすごくほっとすると思います。大丈夫です、私もそうやって乗り越えてきました。

最後になりますが、私にとって明德短大は、帰ってくる場所です。こんなにも、先生と学生との距離が近く、親身になって話を聞いてくださったり、一人ひとりを理解してくださる、温かい学校はないと思います。

短大に遊びに来ると、いつでも「おかえりなさい」と言って迎えてくださる環境があることに、本当に感謝しています。特に印象的なゼミの授業では、自分の考えや気持ちを相手に伝えたり聞いたり、自分と向き合う授業で、それが就職してからも活かされています。個性をたくさん引き出してくださる、一人ひとりの意見に耳を傾けてくださる、そんな明德短大で2年間学べたことは私の誇りだと思っています。いつまでもこのつながりを大切にしたいと思いますし、ここで出来た友達も、一生の付き合いになると思います。

皆さんにも、明德の先生方、仲間と、卒業してもつながっていてほしいと思いますし、これから就職活動をする中で、不安な気持ちもあると思いますが、皆さんの就職活動が順調に進むことを心からお祈りいたします。

39回生：井崎 糸織さん（佐倉城南幼稚園）



私は2年生の6月まで、保育所での就職を希望していました。なぜなら、幼稚園で働くと、一人で担任を持つため責任も重く、行事も多くて大変そうという負のイメージを持っていたからです。しかし、6月の教育実習Ⅱ（幼稚園）で、担任の先生が、日々子どもと真正面から向き合っていて関わっていく姿や、担任を持っているからこそその子どもとの関係性を見たり、クラスとしてのまとまりを感じたりしている内に、気持ちに変化が出てきました。

そして幼稚園に就職して6年が経ちました。年少を2年、年長を2年、フリーを1年、そして年中と担任を持ちながら経験を重ねてきました。年数を重ね、経験を重ねていくうちに、多少余裕が出てきたり、引き出しが増えたりはしてきましたが、日々勉強だと感じています。子どもであっても、対するのは一人の人間です。なので、日々反省したり、嬉しくなったりするのです。

行事では、子どもと共に作り上げることがとても難しく、日々悩むことばかりです。しかし、それを乗り越え、やりきった瞬間に、その苦労は消え、大きな喜びが得られます。何より、子どもの成長を間近で見守れることは、何より嬉しいことです。

入園当初は泣いてばかりいた子が、年長になり立派に卒園していく…子どもたちの3年間の成長はとても大きいです。3年間だけではなく、1年間での成長も大きく、年度始めの4月と年度終わりの3月での子どもは全く違います。日々変化していく子どもたちの姿や、子どもの何気ない一言、行動に、驚かされたり嬉しくなったりします。

保護者も子どもも、担任だからこそ築ける関係があると実感しています。一期一会と言いますが、毎年新しい出会いがあるということは、素敵なことです。また、私のいる幼稚園は、遊びの中から関係性を学んでいくため、日々新しい発見があり楽しいです。

学生の皆さん、いろんな園に見学に行き、就職を決断してほしいです。幼稚園での仕事は、常に楽しいだけでは務まらないですし、努力したり苦勞したりすることもいっぱいありますが、私がここまで続けてこられているのは、それ以上にやりがいがあるからです。皆さんも、大変なことがあっても、いろんな人に頼りながら頑張ってください。